

企画情報部報（平成二十三年度）

異 動（平成二十四年四月一日付を含む）

平成二十四年三月三十一日付で企画情報部事務補佐員（資料閲覧室司書）中村節子は定年退職した。

平成二十四年四月一日付で企画情報部近・現代視覚芸術研究室長山梨絵美子は副部長に昇任した。

平成二十四年四月一日付で企画情報部研究員皿井舞は主任研究員に昇任した。

平成二十四年四月一日付で企画情報部広領域研究室長綿田稔は文化財アーカイブズ研究室長に配置換えとなった。

平成二十四年四月一日付で九州国立博物館文化財課資料管理室長小林公治は企画情報部広領域研究室長に配置換えとなった。

平成二十四年四月一日付で企画情報部文化財アーカイブズ研究室長津田徹英は文化形成研究室長に配置換えとなった。

平成二十四年四月一日付で企画情報部文化形成研究室長塩谷純は近・現代視覚芸術研究室長に配置換えとなった。

平成二十四年四月一日付で企画情報部主任研究員江村知子は文化遺産国際協力センター主任研究員に配置換えとなった。

平成二十四年四月一日付で文化遺産国際協力センター国際情報研究室長勝木言一郎は東京国立博物館学芸企画部博物館情報課室長に配置換えとなった。

平成二十四年四月一日付で橋川英規は企画情報部アシエイトフェローに着任した。

オーブンレクチャー

第四十五回オーブンレクチャー「モノ／イメージとの対話」を研究所セミナー室において左記のとおり開催した。

十一月十一日（土）午後一時半～四時半

日本美術史における様式の複線性―様式の選択と編集―

企画情報部報

平安時代前期から後期へ―六波羅蜜寺十一面観音像の造像― 皿井 舞
鎌倉時代から室町時代へ―中世やまと絵様式の源流と再生―

東京工業大学 高岸 輝

十一月十二日（日）午後一時半～四時半

古美術のコンセプト

室町漢画の基盤―周文と雪舟の場合―

平安～鎌倉時代の印仏―スタンプのほとけ―

町田市立国際版画美術館 佐々木守俊

黒田清輝共催展

昭和五十二年以来、毎年開催してきた黒田清輝共催展（近代日本洋画の巨匠黒田清輝展）を七月十六日（土）から八月二十八日（日）まで、釧路市立美術館で開催した。

研究会

五月十一日

メトロポリタン美術館所蔵「聖徳太子絵伝」

について

五月二十五日 最大の洛中洛外図―制作環境と年代仮説 東京国立博物館 土屋貴裕

五月二十九日 日本統治時期における台湾伝統書画の

アイデンティティーへの模索

国立台湾師範大学（来訪研究員） 留 啓群

ジオルジュ・ド・トレッサン（一八七七一―一九一四）

の室町期絵画評 相模女子大学 南明日香

七月二十七日 浄瑠璃本「かるかや」の画風

琳派と能の関係についての再考 成城大学 相澤正彦

八月三十日 コロンビア大学大学院（来訪研究員） フランク・フェルテンズ

九月二十日 ミニマル以後のアート―内藤礼の近作をめぐって 河合大介

七五

十月十八日 大村西崖と朦朧体 塩谷 純

資料紹介 大村西崖撰『支那美術史雕塑篇』について

東京藝術大学 大西純子

一月二十四日 東日本大震災被災地における文化財救済活動調査

—オーストラリア学会における発表報告とインタビュー—

森下正昭

二月二十八日 『御絵鑑』について

佛光寺本『親鸞伝絵』をめぐって

三月二十七日 敦煌壁画の制作材料と制作技法に関する研究

—莫高窟第二八五窟壁画の復元的考察—

東京藝術大学大学美術館 芹生春菜

科研中間報告会

十二月二十日

平成二十一〜二十四年度科学研究費助成事業(科学研究費補助金)「諸先学作品

調査・画像資料類の保存と活用のための研究・開発—美術史家の眼を引継ぐ(代表

田中淳)」

昭和の古画備考—田中一松資料を今後の研究に活用していくために 江村知子

久野健資料について 皿井 舞

現代美術資料—画廊等のDM・目録等の整理と今後の課題

和光大学(客員研究員) 三上 豊

柳澤孝資料について 客員研究員 中野照男

田中助一資料について 綿田 稔

田中敏男資料について 田中 淳

文化財情報データベースの試行 江村知子

皿井 舞

研究交流促進のための研究会

三月五日

「文化的記憶」としての八幡縁起の絵画化—その古為今用

ハイデルベルグ大学 メラニー・トレデー

逐次通訳 明治大学 高松麻里

司会 津田徹英

コメンテーター 塩谷 純

東京国立博物館 土屋貴裕

国際シンポジウムに向けての研究会

第一回〜第六回(八月三日、十月四日、十一月二十一日、一月十三日、二月八日、

三月六日)

テーマと内容についての協議

刊 行 物

『李唐萬壑松風図光学検測報告』(台湾・故宮博物院との共同研究成果書)

平成二十三年十二月

『日本美術年鑑 平成二十二年版』

平成二十四年 三月